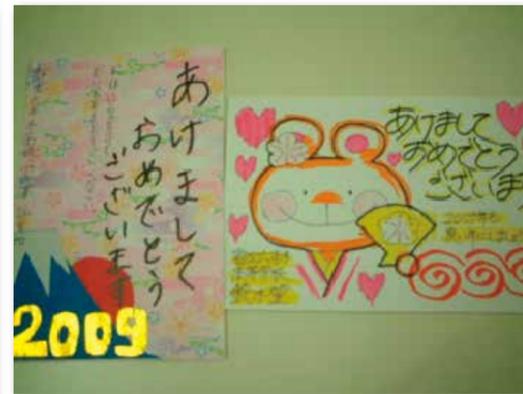




東京都立六本木高等学校



上野動物公園での活動の様子



お年寄りに送った年賀状

・【**設立年**】 2005年 ・【**所在地**】 港区 ・【**活動年数**】 13年

取組の概要

- ▶ ボランティア活動を教育の柱のひとつとして教育課程に位置づけ
- ▶ 活動を通じて、自己肯定感を高めるなど生徒が成長

- 総合的な学習の時間にボランティア活動を位置づけるとともに、学校外の学修において、ボランティア活動を単位認定
- 地域の団体や小学校等と連携して、清掃活動や行事の運営等において様々なボランティア活動に生徒が参加

具体的な取組等(活動の詳細等)

- 総合的な学習の時間に、過去には1・2年次において「福祉活動」「ボランティア活動」を置き、現在は「ボランティア研究」「人間と社会」を設け、ボランティア活動の社会的な意味の理解と行動力を育成
- 学校外の学修の単位認定科目として「ボランティア実践」を設定し、生徒が自主的に開発したボランティア活動等を単位認定
- 商店街などの地域の団体等と連携して、清掃活動や地域イベントにおいて、長年ボランティア活動を実施
- 近隣の小学校や幼稚園において、小学生の学習支援や運動会等の行事運営におけるボランティア活動に生徒が参加
- 港区の一人暮らしのお年寄りに暑中見舞い・年賀状を送る活動を10年以上継続して実施
- 「スペシャルオリンピックス日本・東京」と連携し、スポーツ活動に参加
- 近隣警察署の交通安全週間に参加（和太鼓、箏曲）
- 上野動物園の迷子相談
- 「青少年赤十字活動」や「防災学」の授業で防災ボランティアについて学習
- 近隣都立図書館や子ども食堂での手伝い

取組の効果

- 不登校等の経験のある生徒たちが、ボランティア活動を通じて、自己肯定感を高めるようになり、将来の希望や目標を持つ生徒が増えている。
- 他の人を大事にしようとする傾向が年々強くなり、学校行事でも、お互いに協力する関係が円滑に作れるようになっている。